

令和6年第9回大竹市教育委員会

1 開催日時 令和6年9月27日（金）9時30分開始

2 会 場 大竹市役所3階大会議室

3 出席及び欠席委員

教育長	小 西 啓 二	出席
1 番	池 田 良 枝	出席
2 番	中 田 美 穂	出席
3 番	小 城 和 之	出席
4 番	市 川 洋	出席

4 出席職員

総務学事課長	大 井 一 徳
総務学事課	横 峰 路 子
	丸 茂 宣 潔
	岡 村 篤 子
生涯学習課長	川 村 恭 彦
生涯学習課	新 畑 房 恵
	武 田 宜 裕

・・

【開会時刻 9時30分】

小西教育長 定足数に達していますので、これより令和6年第9回大竹市教育委員会会議を開会します。

はじめに、議事録署名委員を指名します。議事録署名委員は、大竹市教育委員会会議規則第15条第2項の規定により、中田委員を指名します。

これより本日の日程に入ります。日程第1「会期の決定について」を9月27日一日限りとします。異議はありませんか。

委 員 一 同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって会期は本日一日間と決定しました。

議案第16号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

小西教育長 日程第2「議案第16号 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について」を議題といたします。事務局から説明を求めます。

事 務 局 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを市議会に提出するとともに、市民へ公表することが義務付けられています。この点検及び評価は、市民への説明責任を果たすとともに、より効果的な教育行政を推進するために実施内容を市民に周知することを目的としているものです。大竹市では、令和3年3月に「大竹市まちづくり基本構想」を策定し、概ね30年後を想定したまちづくりの理念や実現したい将来像を示しており、この基本構想を踏まえて、「第1期

大竹市まちづくり基本計画」を策定しています。この基本計画では、分野別個別施策の「取り組みの方針」に沿った「主な事業」を掲載し、実施計画では、この「主な事業」の計画期間における具体的な取り組み内容と事業費、数値目標などを定めています。教育委員会では、一般行政と教育行政の調和を図る観点から、第1期基本計画の実施計画事業として掲載し、令和5年度に実施した事業の中から事務の点検及び評価を実施することとしており、事業ごとにその目的または目標に照らし合わせて観点ごとに評価しました。実施方法は、評価シートによって教育委員会事務局で自己評価を実施し、学識経験者である外部評価専門委員に、事務局の評価を踏まえてのご意見をいただくという方法をとりました。判定結果、方向性について、全体的な判定結果をみると、昨年度に比べ、判定結果Aが減少し、Bが増加する結果となりました。「事業の有効性」の項目について、「目指す効果」を評価するにあたっては、引き続きAが多く、「事業の効率性」の項目については、少ない経費で事業効果が上がった事業が多くAの割合が増えており、概ね事業実施による効果は得られているという結果となっています。評価結果を踏まえ、事業の目的を達成するため、効果的な事業の実施に努めるとともに、社会情勢や市民のニーズを把握した事業展開を行うなど、目的達成に向けて積極的な取組が必要と考えています。今日は、点検及び評価を行った9事業のうちから事務局において抜粋した、2事業について説明させていただき、ご意見をいただきたいと思います。その後、委員が特にお聞きになりたい事業がありましたらご発言いただき、事務局から説明させていただきたいと思います。

事務局 事業番号②教育推進事業（ICT活用事業・指導体制の充実・小中学校の連携）について、説明します。まず、「1事業概要」ですが、9年間での教育活動を見据え、小学校と中学校の連携を強化する。児童生徒が主体的に学習課題に取り組むことができるように、1人1台学習者用端末の効果的な活用を行う。教員研修を実施し、児童生徒、個々の理解度や発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導や生徒指導の充実を図る。これらのことにより、児童生徒が主体的に学習に取り組む環境が整い、社会で生き抜く力やコミュニケーション能力を身につけるための学校教育活動が行われていることを目指しています。次に、「2実施状況」ですが、児童生徒が授業で学習者用端末を効果的に活用できるための研修や、ICTを活用した授業研究を行う研修を実施し、学習者用端末の効果的な活用を目指した取り組みを行った結果、学習者用端末の活用によって児童生徒の主体的な学びにつながったと感じる教員の割合は実績値93.8%でした。目標値にはわずかに届きませんでしたが、大多数の教職員が学習用端末を使用した学習に手ごたえを感じていました。また、総務学事課職員による授業観察などのために、各学校を月1回以上訪問することを目標としていましたが、各学校共、訪問などできていない月があり、実績値は86%となっています。学校訪問以外でも、市の主催研修や指導案検討など、機会のあるごとに指導助言を行いました。また、教職員研修を実施し、教職員の資質・能力向上に取り組みました。中学校区における、小中学校の連携を毎月1回以上実施している学校の割合の実績値は100%となっております。9年間を通した教育活動の充実に向けて、合同研修を行ったり、教職員や児童生徒の交流を行いました。次に、「3自己評価及び方向性」ですが、まず、有効性のうち、目標値については、実績値が目標値に達していない項目の方が多くなっていますが、年間20回以上、研修会を開催し、小中学校の連携や、同校

種の教職員の連携を行うことができ、教職員の力量の向上に寄与できていると考え、B判定としています。目指す効果については、ICTを活用した授業研究や、ICT支援員を講師とした研修を実施していること、また、ICT活用の普及が進んでいることに加え、ICTの活用を苦手としている教職員を対象とした研修を行い、授業等での活用を促していることから、A判定としました。効率性については、ICT活用事業には多くの費用がかかっていますが、ICT支援員のサポートを受けて、タブレットやデジタル教材の使用に難しさを感じる教職員も業務を行えていることから、A判定としました。必要性については、現在行っている取り組みを継続して行うことで、教職員がICTを効果的に活用し、学習指導等を充実させていけると考えることから、A判定としました。方向性は、更にICTの活用や小中学校の連携を進めていくために、事業の実施は継続、方法は現状を基本としました。9年間の教育活動を見据え、個々の理解度や発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導や生徒指導を充実させるため、大竹市内の各種研修会を年間20回以上実施しています。また、その研修会を通して、小中連携や、同校種の連携を行い、教職員の指導力の向上を図っています。また、児童生徒1人1台学習用端末の効果的な活用を図ることで、個別最適な学びを実現することができると考えています。タブレットの活用に関しては、児童生徒及び教職員が目標を持って取り組めるように、児童生徒の発達段階を考慮した、情報活用能力育成案を作成しています。また、タブレットの活用に困難を感じている教職員がいますが、ICT支援員のサポートにより、着実に活用場面が増えていきます。委員の方々からは、タブレット導入時はタブレットを使用することが求められていたが、今は効果的に使用することが求められているので、効果的な使い方を指摘できるように授業観察を行って欲しい等の意見をいただきました。

事務局 事業番号 ⑦（玖波地域交流施設整備事業）についてです。「1事業概要」ですが、本市のまちづくりの方向性を示した「第1期大竹市まちづくり基本計画」では、「学び楽しむ豊かなまち」の実現のため、「生涯学習・社会教育・文化活動などによる学びの場を整え、活動意欲の高い市民を増やす。」ことを「取組の方向性」とし、「公共施設等総合管理計画における施設の集約化や長寿命化の方針を踏まえながら、老朽化した施設の安全対策を進めるとともに、地域の活性化や市の魅力向上につながるような施設整備」を「取組の方針」に掲げ、これにより、「第1期大竹市まちづくり基本計画」の4年間の計画期間で『人づくり』や『つながりづくり』のための社会教育の推進によって、心豊かに楽しく自分らしく学べる環境が整い、『持続可能な地域づくり』が進んでいる」を、実現したいまちの姿としています。その中で、「2取組内容」ですが、本事業は、建築から約50年が経過し、老朽化や耐震不足等の課題を抱える玖波公民館の建替えに当たり、同地区内の類似施設であるコミュニティサロン玖波の機能を統合し、新たな地域交流施設として整備するもので、令和5年度から令和8年度までを計画期間とし、現在のスケジュールでは、令和8年度中に完成、令和9年4月までには新施設供用開始を目指しています。令和5年度は、地元住民への説明会や、住民アンケート、利用者・利用団体・関係団体へのヒアリング、住民ワークショップ、パブリックコメント等を実施し、ニーズの把握・集計分析を実施しながら、新施設の方向性等を定めた基本構想・基本計画を策定しました。本事業の実績を表す「事業指標」ですが、「地域交流施設の整備率（設計・工事の事業費ベース）」を設定しております。令和5年度は基本構想・

基本計画の策定のみで、新施設の設計は今年度から着手していることから、実績値は0%となっています。本事業の実施に係る「コスト」ですが、新施設の基本構想・基本計画策定業務委託料11,550千円を一般財源で執行しています。本事業の「自己評価」ですが、「有効性」の「目標値」については、事業の目標値の設定を令和6年度からとしているものの、新施設の設計・工事に向けて基本構想・基本計画の策定を完了し、事業全体としての目標は達成していることから、A判定としています。また、「目指す効果」については、住民・利用者意見を十分反映させるためのプロセスを段階的に経て実施し、新施設の基本構想・基本計画に反映させており、期待する効果が得られていると評価し、A判定としています。「効率性」の「費用対効果」については、施設の統廃合や限られた立地での施設整備など複雑な要件をクリアしながら新施設の方向性をまとめており、予算の範囲内で投資効果が得られていると評価し、A判定としています。「必要性」の「事業手法」については、ノウハウのある事業者の基本構想・基本計画の策定支援業務を委託し、アンケートやヒアリング、ワークショップなど住民参画で策定を進めており、手法としては妥当と評価し、A判定としています。今後の「事業の方向性」ですが、事業スケジュールに沿って着実に進めていく意味で、現状を基本として継続方向としています。新施設の基本構想・基本計画に基づき、令和6年度から令和8年度にかけて着実に設計・工事を進め、先に申し上げましたとおり、令和9年4月1日までに供用開始できるよう進めてまいります。新たな地域交流施設が、現在既存施設でおこなわれている事業や活動の継続はもちろん、将来に渡って持続可能かつ発展可能性のある活用自由度の高い施設となるよう、利用者・地域住民のニーズを踏まえながら取り組みます。

小西教育長 これより質疑に入ります。質疑はございませんか。

小城委員 ICTについてです。よく説明の中に効果的という言葉が頻繁に使われていたと思います。先生に対して効果的というのと、児童に対する主体的というのは、こういったところが判断基準になるか教えてください。

事務局 教職員に対して効果的というのは、タブレットを授業で使用する回数が増える等そういった事を考えています。児童の主体的な学びというのは、児童がタブレット等を使って、自らの意思で調べ学習をしたり、目標を持って、学習に取り組むことを想定しています。

小城委員 それは結局、評価実施状況DOの部分と、例えば、(2)の主体的な学びに繋がったと感じる教員の割合は、その教員のそれぞれの自己判断によることから、児童が主体的に学びに繋がったかどうかは、実際のところ分からないのでしょうか。

事務局 アンケートの対象が教員となっており、生徒が自分で主体的な学びに繋がっている、感じているかどうかのアンケートは取っていないので、どうしても実績における指標目標ですが、これについては教職員がこのように感じているという判断で結果を挙げています。

小城委員 (2)の実績は、月1回以上学校に訪問する学校の割合は、月1回各校に1回行かないといけないのか、全体通して、1校に1回行かないといけないのか教えてください。

事務局 これは毎月各学校に1回ずつ行っていますが、年度末、年度当初は各学校が慌ただしいので訪問出来てないことがあり、パーセンテージが落ちています。

小城委員 この授業観察等のために訪問した学校というのは、1回ぐらいいは行けるので

はないかと感じます。肌感覚ですが、1回行けば100%なのであれば必ず行けるのではないかと思います。学校数がとても多くあるわけでもないですし、6校ですね。小学校中学校の6校に対して、1回も行けないのは、どうかと思います。また、数字が67、89、86とありますが、何÷何をしてこの数字が出たかを教えてください。

事務局 計算方法としては12ヶ月×6校で本来ならば、72回学校にいかねければいけないところを何回しか行けてないという割合で、86%等となっています。

市川委員 ICTの活用については、どこで評価をしていくかがすごく難しいところがあって、教員によって得意な人、不得意な人がいる。その中で、どこで測っていくかを考えていくと、やはり最終的には学力向上に繋がっているかどうかで測ることが大切なのではないかと思っています。最近、大竹市内の授業研究等を様々見させてもらう中で、それぞれの現場の教職員がICTを使い始めることで、より効果が出ているのではないかと感じています。ですから、そこを具体的にどう見ていくかが今後の課題に繋がっていくと思います。和木小学校で見たように、今後実際にICTを使ってどういうふうに見ていくかをもっと前面に出して、実際に授業をし、皆さんで研究授業をしていくのがすごく重要だと思いました。

池田委員 市川委員が言われたことはすごく重要だと思います。ICTも日々進化をしているので、そこにどのように対応していくのか。また大竹市内だけで完結するのではなく、ICT活用が進んでいる他の市町に対して、活用を推進している者が見に行くのもすごく大事ですが、推進していない、いわゆる苦手意識を持っている職員がそのような研修に行って、やる気になってもらえると、もっともっと活用されていくと思います。「効果的な活用」という文言がすごく曖昧で、数値化がすごく難しいと思いますが、先ほど市川委員が言われたように、子どもたちの学力がついているかどうかの部分で最終的な目標になるのではないかと思います。

中田委員 得意不得意、それぞれ感じていらっしゃる先生によってICTを使用される回数にムラがあることが一番気になるところで、そこをどれだけ平均化していくかも大事だと思います。また評価に関して、今は先生方の感じ方で評価をされていると思いますが、生徒もICTを使うことによってどのような効果を自分が実際に得られているか、どういうふうに感じているかの部分も今後は分かれば良いなと思いました。

小城委員 ICT支援員が何名か配置されてると思いますが、先生方がICT支援員がいて助かったとか、ICT支援員のおかげでこのような指導のやり方を見つけた等、そういったアンケートはありますか。

事務局 具体例を挙げてのアンケートはしていませんが、先生を対象に、ICT支援員がいて良かったかどうかや、今後もICT支援員が派遣される方が良いか等、ICT支援の感想や希望を集約するためのアンケートはしています。その中で意見は好評で、今後も継続してICT支援員を派遣していただきたいとの回答がありました。

小城委員 そういったアンケートはあくまでも評価シートとは異なり、事業として、行政としての評価の部分だと思うので、実際の現場の人達の声などが分かれば、公開できる範囲で教えてもらいたいなと思います。

小西教育長 ご意見ありがとうございます。先ほどから出ているように、教職員の中のスキルの差は、本当にまだまだたくさんあります。例えば、昨日観た算数の授

業の中では、若い職員の授業で、チャットを使って子どもが途中途中で何か入力しながら、今これを学んでいるとか、こういうふうにやったら良いよというのを画面に出してくるんです。それを見て子どもが学習を進めていく授業もあるし、ただ単に画面を映して、子どもたちに説明する授業もあるということですね。まだまだそういうところは各教職員によってだいぶ差がありますが、そこは教職員の指導の特性を生かしながら、上手く使っていただけたら良いと思います。画一的な物ではないため、あくまで授業の道具として使用するよう、教育委員会から学校の方には指導しています。例えばコンパスを使うみたいに、ちょっと使ってみよう、調べてみようという道具の一つとして活用してもらいたいです。他に質疑はありませんか。

市川委員 1時間の授業が45分と限られていますので、その45分の中で、いかに効果的にICTを使っていくか。この場面で使う等と決めず、ダラダラと使うと1時間がそれで終わってしまいます。例えば4年生国語の「ごんぎつね」あたりを見ると、彼岸花について考えようとみんなで調べていると、それでもう1時間過ぎてしまう。洞穴に入っていたごんがなかなかいつまでたっても出てこない。そういう一つ一つのことについて熱心に見ていくと、45分間があつという間に過ぎてしまうのが、ICTにも言えると思います。昨今はICTを用いた探求の場面が、さまざま教科書に載っているわけですが、そこへ逐一入っていくと、それでもう45分間が終わってしまうので、いかに効果的に1時間1時間を進めていくかがこれからの課題だと思います。

小西教育長 どちらにしても、先ほど池田委員からもありましたように、タブレットもどんどん進化していき、より中身についても充実してくるので、それに学校現場は対応していかないとはいけません。大変ですけれども、常に学んでいく姿勢を持ちながら、学校で活用してもらいたいと思っています。他に質疑はありませんか。

市川委員 玖波交流施設事業についてです。玖波のみでなく、栄や他の公民館職員の方とても興味関心を持っていて、実際に職員が玖波へ行って見学したりしており、波及効果はすごく大きいと思います。ですから、ぜひ積極的に他の公民館の職員も見学に行く、研修会を開くなどしていけば、かなり変化があると思います。そういった部分もこれから計画的に取り組んでいき、より他の地域へ波及していくことを期待します。

小西教育長 何かそのようなことで具体例があれば紹介してください。

事務局 昨年度は数回しかできませんでしたが、今年度は3ヶ月に1回程度、連絡会議を開いています。玖波・栄・大竹会館・総合市民会館の職員に集まっていたいて、4館でこんな事業をやっているとか、らんらんカレッジのような合同でやる事業の進め方とか、情報交換の場を持ち、それぞれの館の特徴を大事にしつつも、事業の水準をお互いに上げていけるような会議にできればと、現在切磋琢磨しているところです。

小西教育長 よりしっかり連携をとって共有化を図って、もっともっと充実させていかないとはいけないと、ご意見を聞いて思いました。

池田委員 やはり連携はすごく大事だと思います。総合市民会館、大竹会館、道の駅等、同じようなイベントが開催される施設の改修や新築がこれから進んでいくと思うので、それぞれの館の特色を作りながらも連携をして、大竹市という一つの大きな枠の中で、公民館独自の特色を持ちつつ、連携するところや合同でできる部分の見通しを持たなければいけないと、お話を聞いて思いました。

小 城 委 員 玖波に住んでいるのでいろいろと話を聞いたり耳に入ってきたりするのですが、住民説明会やアンケートが何回も実施されていて良かったなと感じています。資料に記載のある、集計分析を実施した内容を教育委員会で見せてもらえたらというのがまず一つと、それがどのように生かされているかという所見、それも公開されているのでしたら少し教えて欲しいのがもう一つ。先月は確か教育委員会の後に、その日の夜に玖波で説明会があったと思うのですが、そのときの状況がどうだったかを教えてもらえたらと思います。

事 務 局 まず、玖波地域交流施設の基本構想基本計画ですが、全編版を配布しておりませんでしたので必要であればご用意させていただこうと思います。公開につきましては市のホームページに本編全編版と概要版を両方掲載させていただいておりますので、そのあたりはまた準備させていただきたいと思います。それから7月に行われた住民説明会の状況ですが、その場で示された意見や要望につきましては、市のホームページの方に、意見を集約したもの及び、それに対しての市の回答を公開させていただいています。この意見と回答については、実際に設計を行っていくにあたりどのようにそれを検討していったのか、進捗が分かるようにしております。一つの例を言うと、平面図の中の2階部分に大きい吹き抜けがあったんですが、そこはもっと有効に使ってほしいという意見があったため、そのスペースは別の形で使うこととし、個室的に使えるような空間にしたいと思いますという内容を、設計の中でどんどん反映し、具体的に公開できるようになったものから順次更新する形にしております。実際、説明会の意見の中には、施設そのものに対して、例えば多目的トイレが何で1階にしかないのか。という具体的な意見もあります。それからやはり、1番皆さんがおっしゃっていたのは、どうしても休館がスケジュール上発生してしまうことについての懸念です。それについて、できる限り休館期間は短くしてほしいとか、他方では、その休館期間を利用してもっと地域や学校の方と連携をして、協力しながら前向きに対応していきたいというご意見をいただきました。ただやはり懸念が非常に大きいということで、我々もその休館期間については、できるだけ短縮したい意向を持っていますので、その辺りを今進めております。

小 城 委 員 今回の説明の中にあった学校との連携に関しては、話の内容によっては担当課がそれぞれ異なっていたり、できることやできないことがあったりすると思うのですが、連携自体はうまくいきそうですか。

事 務 局 うまくいくかどうか、現時点では不透明ですが、例えば利用団体がホール等の代替の施設が必要となった際に、生涯学習課の所管施設同士が遠方だった場合、車での移動をお願いできる場合もありますが、そうでない時に近くの学校施設を柔軟に使用できないか等、学校や総務学事課と連携して、協力を仰ぎながらになると思われます。また市の主催事業に関しても同様の可能性がありますので、事業内容等の見直しをしながら、どうしても学校施設を使用したいとなった場合に、学校に協力を願ったりすることになるかと思われます。幸い、玖波小・中学校と玖波公民館などは、日頃からうまく連携してやって下さっているので、その辺りの関係性を生かしながらやっていきたいと考えています。

事 務 局 先ほど話に上がった自主事業の管理に関しては、社会教育係が担当しております。現在、玖波公民館で年間どれだけの事業があるのかの見直しを職員間で行っており、休館が挟まる年度（令和8年度）に向けて、休館前にやっておきたい事業がどれで、休館中でもできる事業がどれかなど、今年度中に仕分けを

したいと話し合い中です。

市川委員 一番目の幼保小連携事業について、評価委員の意見では教職員同士の交流が多ければ多いほど連携が深まるとありますが、現実的には難しいのではないかと思います。今でさえ各学校・保育園・幼稚園は行事等忙しい中で、回数は増やせないと思います。この幼保小連携事業は20年ほど前からずっと同じ課題として挙げられているわけで、例えば校長と園長との連携会議などは実際に行っているわけなんですけど、そこから職員に降りて来てないということは、つまり教職員方は現場の中で忙しいので、外へ出て話し合いをしていくことはできていないということです。また幼稚園と保育園はそもそも内容がかなり異なっているため、そこからまずは一つになっていかないといけないと思います。精選化・意識化がキーワードとしてすごく大切だと思いました。またスタートカリキュラムをどのようにしていくかの部分では、これもまた教科書会社によって定めているカリキュラム期間が異なり、会社によって1学期間だったり、1年間を全てスタートカリキュラム期間にしているところもあったりするので、職員がその中身を意識化して取り組んでいくことが必要だと思います。実際に今、小学校の運動会も5月に行われているわけで、つまり保育園の子たちも入学してすぐ、1ヶ月後には大きな行事が控えているので、これもどうすればスタートカリキュラムに繋げていけるかという部分とも関わってくるので、難しいとは思いますが、連携以前に各学校や幼稚園・保育園がどのように行事をスケジュールに入れていくかなどを念頭に、会議を進めていかなければ難しいと思いました。特に小中連携の部分は、3学期に入って急に忙しくしているのが実態で、やはりそうではなく、1学期の初めから連続して進めていくのが大きな課題だろうと思いました。

小城委員 食育の推進について、給食に関してはレシピの公募など、良いなと思う取り組みが多く、また地元の食材等があるだけでもありがたいことだと思いました。それをどのように子どもたちに食べてもらうかも大切で、そこから郷土愛に繋がることもあると思うので、食育の推進はさらにやっていただければと思います。

中田委員 食育の話に関連して、現在食材の価格がどんどん高騰しており、米などは倍くらいの価格になっている現状で、現在の給食費で給食の内容を維持できるのか心配しております。そのあたりを無理のない範囲で柔軟に対応していただきたいです。内容としては充実していると思うので、様々な取り組みも続けつつ、内容の維持もしていただけたらと思います。

小西教育長 ありがとうございます。本日給食センター長が別の公務があり欠席のため、その辺りのことについてはしっかりこちらの方で確認を取らせて頂きたいと思います。

小城委員 食育の話の続きで、給食費は無料かと思うんですが、フードロスがどれだけの量生じているのか把握して頂きたいのと、それらが単に廃棄されているのか、肥料か何かで利用されているのかが分かれば、それらも含めて子どもたちに教えていく必要があると思うので、それらを調べて頂ければと思います。

小西教育長 大竹市は給食の残菜率を毎月記録しており、全国の学校がおおよそ5%ほど残すのに対し、大竹市は1%と少なく、ほとんど残さず食べるということで給食センターの方から報告を受けておりますが、ただそうは言ってもロスは出ますから、それをどのように活用しているのかを調べておこうと思います。

市川委員 給食に関しては現実的には、給食費の3分の1以上を牛乳が占めているらし

く、割合で言うとかかなりの部分になると思います。牛乳を使わないメニューを見たことがあるのですが、ずいぶんとメニュー内容を変えることができるんですね。毎日牛乳を飲みなさいという牛乳協会の声等もあり、実際には難しい場面があるのですが、例えばクリームシチューの日には牛乳と重複するため他の飲み物に変える等、これからは工夫がいるのではないかと思います。牛乳を無くした給食も採用が進んでいるので、食材費の高騰の部分から言っても効果的ではないかと思われます。

小西教育長 ありがとうございます。本日給食センター長が欠席のため、すぐには分かりませんが、給食の内容に関してはもしかすると文科省の定めている部分もあるかもしれません。他に質疑はありませんか。

中 田 委 員 学校連携・子どもの居場所づくり事業に関して、令和5年度は46教室ということで、数も増えて充実していると感じます。自分が小学生の子育てをしている時には競争率が高く、落選するばかりでなかなかこういった事業に参加できなかったんですが、これだけ教室数が増えると参加できる確率も上がってきて、保護者としてはありがたい限りだと思います。評価委員の意見で、教室数を増やすことよりも内容を精査して事業の効率化を進めてもらいたいとあるんですが、個人的には選べる教室数が多いほど魅力的だと思うので、数を増やすのも継続してやっていって頂けたらと思います。

池 田 委 員 中田委員の意見に賛成で、教室数を増やすことは素晴らしいなと思います。子どもたちは昨今体験の場が限られており、学校生活の中でも体験をさせる必要がある中で、こういった教室の中で初めて体験することは多くあって、そこで子どもたちがこれからやりたいことを見つけていける一つのきっかけにもなっていると思いますので、是非続けて頂きたいなと思います。

小西教育長 計画・立案・実施などなかなか大変な部分がありますが、どうにか子どもたちの思いや願いを叶えられる、そんな教室をしっかりと運営していきたいと思います。

事 務 局 夏休みのサマースクール、特に玖波地域などでは小城委員にもご協力頂いておりますが、その他各企業本当に協力的で、企画段階から協力して下さる企業の皆様、そのお力があっての教室数だと思っておりますので、それが維持できるよう、私どもも一生懸命これからも頑張っていきたいと思います。

小 城 委 員 文化財保護事業について、子どもたちにも、私たちの世代や私たちより上の世代の方達にも、どの世代に対してもどんどん推進して頂きたい。評価委員の意見でも、市外の方にも発信していくと書いてありますが、まずは市内の人たちに重点を置いて、みんなが体験できる、したいと思えるものにして頂きたいです。この時期になるとお祭りなどもあります、子ども達がわくわくするようなお祭りにしなければいけないと思うと同時に、そのお祭りにどういった伝統があるのかを、かつての産業である手漉き和紙のことで併せて伝えていく必要があると思いますので、その辺りに更に力を入れていって頂きたいです。

市 川 委 員 スポーツ振興事業について、最近、地域の体育指導委員など、指導者の高齢化が目立ってきている現状があります。昔から同じ人がずっと担ってきており、話を聞くと後継者がいない。最近では70歳頃まで皆働いておりますから、お願いしてもできる人がいない。現在70歳以下の、これからの指導者をどう育成していくかが課題であると思っております。

小西教育長 おっしゃる通り、体育関係に限らず、民生委員・人権委員など多岐に渡り、次に引き継いでいくことが難しい時代になってきていると思われるので、その

辺りをどうやって繋いでいくか、皆様からご意見頂きながら考えて参りたいと思います。他に質疑はありませんか。

池田委員 教育委員会の活動状況における研修会の参加状況について、昨年度7月に中国地区の研修会に公費で行かせていただいて、それが載っていないのが気になりました。

小西教育長 承知しました。事務局の方で確認してみます。他に質疑はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 質疑なしと認めます。これをもって、質疑を終結します。本件を採択します。本件は原案のとおり可決することに異議ありませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり可決されました。

報告第25号 教育に関する市議会提出議案に対する意見の申出について

小西教育長 日程第3「報告第25号 教育に関する市議会提出議案に対する意見の申出について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事務局 令和6年9月大竹市議会定例会（第4回）に、議案を提出するにあたり、市長から意見を求められましたが、緊急やむを得ないと認め、教育長において異議ないものと申し出たので、今回の教育委員会に報告し、承認を求めるものです。市議会に提出した議案は、「令和6年度大竹市一般会計補正予算第3号」です。最初に、債務負担行為の補正については、年度内に入札等を事前に実施し来年度からの速やかな業務に備えるため、小学校ICT支援業務に要する経費、中学校ICT支援業務に要する経費について、債務負担行為の設定をします。続きまして、地方債の補正については、次に説明する補正予算の事業にあわせて地方債の限度額を変更するものです。次に中学校管理運営事業では、照明設備LED化工事として、4千万円を計上するものです。内訳は、玖波中学校照明設備のLED化工事のために8千万円、すでに施工しています大竹中学校照明設備のLED化工事について、執行見込みにあわせて4千万円を減額し、合計で4千万円を計上するものです。また、栄公民館管理事業では、栄公民館照明設備のLED化工事について、1千万円を計上するものです。続いて、歳入については、歳出で説明した照明設備のLED化に要する経費の財源として中学校照明設備改修事業債を合計で3千600万円、また栄公民館照明設備改修事業債を900万円計上するものです。

小西教育長 これより質疑に入ります。質疑はございませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 これをもって、質疑を終結します。本件は、報告事項です。報告のとおり承認することに異議ありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり承認されました。

報告第26号 大竹市海の家あたたの臨時休館について

小西教育長 日程第4「報告第26号 大竹市海の家あたたの臨時休館について」を議題

とします。事務局から説明を求めます。

事務局 阿多田島にあります集団宿泊研修施設海の家あたりに関しまして、夜勤対応職員が入院することになり、臨時休館せざるを得なくなったので、緊急やむを得ないと認め、教育長において処理したことを報告するものです。臨時休館は9月11日からとなり、再開の時期に関しては当該職員の回復の状況を踏まえて判断する必要があるため、現時点では未定としております。担当課としては11月初旬には再開したい思いがございますが、はっきりしたことは申し上げられない状況です。離島の施設で、かつ宿泊を伴うという特殊な条件ですので、今後同様のケースが発生した場合にどのように対応していくかが大きな課題となっています。利用者に対してのサービス供給、安全管理体制などに関して、どのような体制を整えるべきか検討していかなければならないと考えています。

小西教育長 これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

中田委員 この臨時休館に伴うキャンセル等が生じたか教えて下さい。

事務局 臨時休館に伴うキャンセルは発生しておりません。

小西教育長 先ほど担当からも説明がありましたが、離島ということもあり、在住者でないと対応が難しいため、なかなか人も見つからず難しい状況ですので、地元とも話をしながら考えて参りたいと思っております。他に質疑はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 これをもって、質疑を終結します。本件は、報告事項です。報告のとおり承認することに異議はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり承認されました。

協議・報告事項 令和6年度学力調査の結果について

小西教育長 日程第5「協議・報告事項 令和6年度学力調査の結果について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

事務局 令和6年度の全国学力・学習状況調査は、令和6年4月18日に小学校6年生及び中学校3年生を対象に、小学校は国語・算数、中学校は国語・数学で実施されました。まず、1平均正答率です。市の平均・県平均・全国平均については、表にあるとおりです。小学校は、国語の正答率が高く、県及び全国平均を上回っています。一方で、算数は、県平均及び全国平均を下回っています。算数では、変化と関係領域に課題が見られました。中学校は、国語で県平均と同じで、全国平均を下回っています。数学は、県平均と同じで、全国平均より下回っていました。数学の図形領域に課題が見られました。2結果の分析についての（学力調査の結果について）には、教科ごとに課題のあった問題の概略を載せています。これらの調査結果を受けて、【今後に向けて】ということで、学力向上につながる授業づくりに向けて、今後、特に取り組むこととして、次の3点を挙げています。一つ目は、基礎的・基本的な学習内容の定着です。定着に課題のあった内容のつまずき等を分析し、該当の学年だけでなく、そこにつながる学習についても、関係学年で系統的に、繰り返し指導を行うようにしていきます。特に算数・数学は小中ともに全国平均を下回っていますので、繰り返し指導を行い、基礎的・基本的な学力の定着を図っていきたいと考えています。二つ目は、思考力・判断力・表現力を付けることです。

授業に課題発見・解決学習を取り入れ、課題解決に向けて、思考・判断・表現する場を設定することで、三つの力を身に付けることを目指します。三つ目は、「できた」「わかった」と感じる授業づくりです。授業のめあてを明確に示し、この授業で何ができるようになったら良いのかを児童生徒と確認した上で、授業後に「何がわかったか」「どんなことができるようになったか」といったていねいな振り返りを重ねていくことで、児童生徒が「できた」「わかった」と感じ、「主体的な学び」に向かうようにしていきます。次に、教科に関する問題の調査結果の概略です。別紙2をご覧ください。教科ごとに、正答率の高かったものと低かったもの、そして無解答率が大きい問題について説明していますが、本日は、課題の中からいくつかを取り上げて説明いたします。まず、(1) 小学校国語では、情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題の正答率が高かったですが、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題では正答率が低かったです。別添資料に問題を載せておりますので、併せてご覧ください。正答率下位2問のうち設問①二(2)は、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかをみる」問題です。広島県・全国も正答率が低い問題で、解答類型1という誤答が3割を超えており、相手が興味を持っていることに気づいても、用意していた実物を示しながら話したことを捉えることができていないと考えられます。次に設問②三アは、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる」問題です。文章の意味から正しい漢字を書くことができなかったと思われます。また、この問題は、無解答率10.7%と高かったです。続いて、(2) 小学校算数です。算数では、直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題は正答率が高かったですが、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題や、球(きゅう)の直径の長さとは立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題では正答率が低かったです。正答率下位2問のうち、③(3)は、「球の直径の長さとは立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかをみる」問題です。正答は、立方体の一辺が球の直径22cmと等しいので、 $22 \times 22 \times 22$ です。④(3)は、「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかをみる」問題です。7割以上の児童が1のあなたさんの方が歩く速さは速いと解答していましたが、多くの児童がその理由を正しく答えることができていませんでした。⑤(3)は、「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかをみる」問題です。誤答の多くは、2000年代のちがいが最も大きいという記述はありますが、何回違うかの記述がない解答です。一つの解答を記述することで、もう一つの質問に答えることができていないため、誤答となっていました。また、その誤答と同程度の児童は無解答でした。グラフを比較することができていないため、何を記述したら良いのか判断できず、無解答率が15.1%と高くなったと思われます。次は中学校です。(3) 中学校国語(P.41)では、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題の正答率は高かったですが、文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみ

る問題や、短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題で正答率が低かったです。正答率下位2問のうち[2]一は、「文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかをみる」問題です。正答は1と2ですが、誤答を選んだ生徒は図の役割を理解することができなかったと考えられます。設問[4]二は、「短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる」問題です。誤答の多くがC→B→Aと解答しており、それぞれの情景の時間帯を適切に捉えられていないか、朝から夜という時間の流れに沿って解答をしたと考えられます。また、無解答率の高かった[3]三、四は、「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかをみる」問題と「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかをみる」問題でした。それぞれ、7.5%、13.4%の生徒が無解答でした。漢字の定着、自分の考えを記述することに課題があると考えられます。続いて(4)中学校数学です。数学では、問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる問題は正答率が高かったですが、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題や、筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題では正答率が低かったです。正答率下位2問の[8](2)は「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかをみる」問題です。この問題はア、イのいずれを選んでも正しく説明をすることができれば正答となりますが、多くの生徒がグラフ、式を使いながら正しく説明することができていませんでした。設問[9](1)は、「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」問題です。誤答は結論を仮定として証明を進めたり、2辺が等しいことだけの証明だったりしました。また、この問題は無解答率も36.0%と非常に高かったです。設問[7](2)は、「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかをみる」問題です。箱ひげ図の読み取り、5つのデータの比較など複数のことができれば説明ができないため、無解答が30.1%と高くなったと考えられます。各学校では、調査結果をもとに、自校のできているところや課題を分析し、授業改善を図ろうとしているところです。教育委員会としても、今ご説明した分析内容を、校長会等を通して各校へ伝えるとともに、先にお話ししました、授業改善に向けての3つの視点について、繰り返し指導を行いながら授業改善を進めていくことで、大竹市全体の児童生徒の学力向上を図っていきたいと考えています。

小西教育長 これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

池田委員 漢字があまり書けていないのが気になりました。普段からスマホやパソコンを使っていて、自分で漢字を書かなくても良く、画面から選ぶことに頼りすぎる傾向があると感じます。小学校でも中学校でも書けていないので、やはり日々の繰り返しが重要だと思いました。また、記述問題ができていないことに関しては、大竹だけの課題ではないと思いますが、表現をさせる部分で言うと、発表などで自分の言葉で話すことはなんとか出来ても、きちんと論理立てて書く作業が出来なくなっていると感じます。授業の中で、自分の考えを理論立ててノートに書く時間が、どうしても取られていない部分もあると思いました。そうした部分はやはりICTを活用しながらも、ノート指導は充実させていかないといけないなと思います。あともう一つ、小学校の国語で、考えたことを100字以内で書くことという問いについて、どれほどの正答率だったの

かを知りたいと思いました。今まではこの部分が出来ていないことが多かったのですが、今回は正答率下位や無回答の割合が多い問題にもリストアップされていないので、ここができるようになってきているのは安心しました。正答率も教えて頂きたいなと思います。また、今までは分野ごとの点数などの細かい資料が出てきていたような気がするんですが、今回は頂いてないので、見てみたいです。

事務局 先ほどの正答率に関しては、63.4%というデータが出ております。

小西教育長 設問ごとの正答率など細かなデータもございますので、次回配布させて頂こうと思います。

中田委員 記述式の問題に無回答が多いのは永遠のテーマだと感じております。その中で正答率63.4%というのはすごく喜ばしいことだと思いました。きっとどの問題も、この原稿用紙のような大きな空欄があると、子どもたちは問題もよく見ずに、できないと決めつけて無回答にしているのではないかという感じを受けます。数学の証明に関してもやはり、広い空欄を見ることによる拒絶反应的な部分があると思いました。また漢字が書けないことに関して、例えば「満ち足りた」というのは、小学校の漢字がきちんとできていれば書けるのではないのかと感じますが、ここがICTの活用と逆行しているところで、見て読めはするけど、実際に書こうと思うと、どうだったかな、となってしまうのは大人もありますが、子どもたちにもそれが起こっているので、ICTを活用しながらも、読むことと書くことを充実させて行かなければいけない。すごく大変なところではあるのですが、やはり読むこと書くことは第一にやっていって欲しいと思いました。

市川委員 今回の学力調査の結果を見ますと、昨年令和5年度の大きな課題として、特に中学校の数学が2ポイントも下がっていたことがあって、今年はどうなのかと見ると、県平均と変わらないレベルで、頑張りを見せております。逆に小学校は算数の図形がちょっと弱かったのを見ると、明らかに大竹市の算数・数学の課題が図形分野であることが判明しているので、これについて今後どのように取り組んでいくかをこれから考えていかなければならないと思います。また一転して中学校の数学が県平均や全国平均と変わらないレベルなのを見ると、この全国学力調査に向けて中学校側で何か具体的な取り組み等があったのか気になります。分かれば教えてください。

事務局 学力向上は一朝一夕にいくものではありませんが、授業を回って見る中で感じるのは、子どもたちが非常に落ち着いて、真剣に授業に向かっている場面が多く見られるなということです。もちろん個々には様々な課題があるんですが、全体として意欲的に課題に取り組んでいる。教師側も授業の目当てを非常に明確にして授業を行っていたり、そうした日々の積み重ねで良い傾向になっているのではないかと捉えています。

小城委員 小学生の算数において、球体の直径の問題や、道のりが等しい場合の速さの問題などは、それこそタブレット活用が功を奏す類いの物なのではないかと思います。今の子どもたちにとってタブレットは、勉強の教材である以前に、ゲーム等で使う物かと思います。ゲーム感覚は強いなと感じていて、以前大竹小学校の授業を見た際に、よーいドンで誰が速く答えられるかなど、ゲーム感覚の延長で子どもたちも楽しく没頭できているのを見ました。また、字を書くことについて、これはもちろん漢字の勉強にもなるし、論理的な文章を書くことは先ほどの数学の証明問題などにも繋がってくると思うのですが、ゲーム感

覚の次の段階、タブレットを本当に活用するためにはどうしたら良いかという、学習計画の見直し・実践が課題かと思います。また、先日小学校へゲストティーチャーとして行った際に、子どもが授業のめあてを意外とはっきり共有出来ていた姿を見た時、そうした授業の入り口の部分はしっかり出来ているなど感じ、あとはそこから授業の進め方にしっかりと落とし込んでいかなければならないと感じました。あと学力調査に関して、市としての目標点等はあるのか気になったので、教えてください。

事務局 年によって難易度も違いますので、具体的な点数目標などはないのですが、究極的には個々の子どもたちが点数を伸ばせるように、というところを学校としては意識しています。

池田委員 各学校で、学年ごとの学力調査などはしていますか。

事務局 業者作成のテストを各学校していると聞いています。

池田委員 なぜ聞いたかと言うと、先ほどの話に関連して、個々の生徒が去年よりも学力が伸びたかどうかなど、評価・実感出来る機会があれば、それが1番大事なのではないかと思ったためです。

小城委員 この学力調査を受けた後は、先生による直しや説明などの授業はやっていますか。

事務局 課題に応じて授業改善を行っているところです。

小城委員 どうやって子どもたちの意欲をわかすか。問題に答えたいと思わせる仕組みが大事だと思うので、そのあたりを考えて行かなければと思いました。

小西教育長 ありがとうございます。全国学力調査に関しては、しっかりと課題を分析した上で授業改善に生かしていこうと思います。他に質疑はありませんか。

委員一同 なし。

小西教育長 以上をもちまして、本日の日程は全て終了とします。なお本日の会議の議事録を作成するに当たり、各議題の審議内容について、字句、数字その他の整理を要するものについては、その整理を会議の議長に委任されたいと思います。異議はございませんか。

委員一同 異議なし。

小西教育長 異議なしと認めます。よって字句、数字、その他の整理は、議長である教育長で行います。

これにて、令和6年第9回教育委員会会議を閉会いたします。

【閉会時刻 11時10分】

.....